

水産業再生プロジェクト

1. 事業概要

我が国の漁業生産量（金額）は昭和59年の1,282万トン（3兆円）をピークに減少し、平成22年には542万トン（1.6兆円）にまで減少しています。

このうち、遠洋漁業については200カイリ体制の定着に伴い生産量が減少しており、沖合漁業については地球規模の環境変動に伴う資源変動に左右されるため、これらの生産を人為的に増加・安定させることには限界があります。

一方、沿岸漁業と養殖業は、主要な漁業であること（全漁獲量の45%、平成22年度）に加え、沿岸環境の修復・保全及び養殖生産のボトルネック（天然依存）の解消により生産量を回復・増大させる「伸びしろ」があります。

このような状況の下で、水産業の再生・成長産業化を推進するためには、現在、沿岸漁業・養殖業において喫緊の課題となっている、①赤潮等漁業被害の早期発生予測、②養殖業のネックである天然資源依存からの脱却、③沿岸資源の自律的再生産を可能とする生態系ネットワーク（海洋生物の卵から成体に至る一生を通じた生息環境の連続性）の再生を図るための技術開発に取り組み、沿岸漁業資源の回復と養殖生産の安定化を実現する必要があります。

このため本事業では、以下の3課題を実施します。

- （1）赤潮等の環境由来の漁業被害を低減するために、海洋微生物を利用した漁業被害の早期発生予測技術及び発生抑制技術を開発します。
 - （2）養殖用稚魚を天然資源に依存しているウナギ、クロマグロ、ブリ類の国民への供給を安定させるために、人工稚魚を活用した養殖技術を開発します。
 - （3）減少が続いている沿岸漁業資源（アサリ、アワビ、カレイ）を増加に導くために、生態系ネットワークの修復により資源を自律的に回復させる技術を開発します。
- 今回は、（3）について公募を行います。

2. 公募研究課題別の研究開発内容、目標等

●公募課題：生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発

① 研究開発の具体的内容

減少が続いている沿岸漁業資源（アサリ、アワビ、カレイ）について、その一生を通じた生息場所、移動分散経路、環境条件、生残等の生活様式の変遷を先端的な生物追跡技術（例：蛍光抗体による種判別技術、バイオテレメトリーによる行動追跡技術等）を用いて把握し、実証的な生態系ネットワークモデルを構築します。また、自然状態でも資源が維持される優良な生息場所の環境構造を解明します。これらを通じて、生態系ネットワークの分断箇所と分断要因を解明し、その修復を図ることにより、自律的な再生産による資源回復技術を開発します。

② 達成目標（最終目標）

研究対象となる沿岸漁業資源の生産量を平成22年（2010年）比で1.5倍（1990年代の平均水準）以上に回復させる技術を開発します。

③ 研究実施期間（予定）
平成２５年度～平成２９年度（５年間）

④ 平成２５年度の委託研究経費限度額
１００，０００千円

３．委託件数

原則として１件とします。

４．問合せ先

上記の内容に関する問合せは、応募の締切りまでの間、下記において受け付けます。

なお、審査経過、他の提案者に関する事項、応募に当たり特定の者にのみ有利となる事項等にはお答えできません。また、これら以外の問合せについては、質問者が特定される情報等を伏せた上で、質問及び回答の内容を農林 水産技術会議事務局のホームページにて公開させていただきますので、御承知おきください。

記

○ 公募研究課題について

農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）室 担当者 鈴木、齋藤

TEL：０３－６７４４－２２１６

FAX：０３－３５９３－７２２７

○ 契約事務について

農林水産技術会議事務局総務課契約班 担当者 江橋

TEL：０３－３５０２－７９６７

FAX：０３－５５１１－８６２２

委託プロジェクト研究の公募説明会 参加申込書
(水産業再生プロジェクト)

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官（環境）室 宛て
(fax : 0 3 - 3 5 9 3 - 7 2 2 7)

平成 年 月 日

該当委託プロジェクト研究名
水産業再生プロジェクト

研究機関等の名称：

参加希望人数： 人

所属・役職：

氏 名：

所在地：

連絡先：tel

fax

e-mail：

その他：

注)「所属・役職」欄以降の記載に当たっては、当該説明会参加を希望する者のうち、連絡窓口となる1名について記載して下さい。